

女と男の豊かな生き方を探る情報誌

Passport

パスポート

vol. 42

2013 鎌倉市

特集

鎌倉発! 女性の起業

～新しい挑戦を
いきいきと～



🌸 すてきな生き方

伝統武芸の将来を背負って立つ
『若武者』の夢

有本大輔さん・又吉あけ美さん

目次

- P2-5. 特集
- P6. トピックス
- P7. 鎌倉市女性相談のご案内ほか
- P8. すてきな生き方

「何かにチャレンジしたい」「何か始めたい」という気持ち、抱いていませんか？ 働きたい、社会貢献したい……チャレンジのかたちはさまざまです。

今号では、ここ鎌倉で、いきいきと仕事をしている女性起業家おふたりにインタビューし、お話を聞きました。

自分らしい生き方、働き方で活躍する姿は、明るく希望に満ちています。



料理教室「鎌倉DINING」を主宰し、鎌倉アンチョビを商品化している矢野ふき子さんにお話をうかがいました。ご自宅は築180年の古民家で、矢野さんのこだわりがふれた、時代空間です。

——起業のきっかけは？

しらす漁の網にはしらすが成長したカタクチイワシがかかることがあります。

鎌倉の海で獲れた山ほどのカタクチイワシが売られることもなく、廃棄されていることを知り、食に携わる者として、なんとかうまく活用する方法がないかと思ったのがきっかけです。



さまざまな個性を受け入れる
包容力のある社会に
なってほしい

矢野ふき子さん

平成22年度鎌倉市商工業元気アップ事業の創業部門に応募し、認定を受けました。

——今後の目標は？

鎌倉アンチョビが鎌倉の漁業の活性化や地域の人々の雇用にもつながればという

願いを持っています。

ちなみに、

鎌倉アンチョビの包装は、社会福祉法人鎌倉清和会に委託していま



鎌倉のカタクチイワシの美味しさがつまっている『鎌倉アンチョビ』

す。また、現在は、生しらすを船の上で漬ける「生しらすの沖漬け」など鎌倉市漁業関連の商品開発なども手がけています。

最終的な目標は、農林漁業者の第6次産業（※）化のサポート。農林水産省のボランティア・プランナーの委嘱を受け、県内の農林水産物の商品化のお手伝いをしています。

——起業して苦労したこと、壁を感じたことはありませんか

様々な試行錯誤を重ねて鎌倉アンチョビを商品化しましたが、これまで鎌倉の漁師さんをはじめ多くの方々からたくさんのおバックアップをいただきました。

女性であるがゆえの苦労や壁を感じたことはありません。

でも、自然相手の漁なのでイワシが安定して捕れるかということ、また、思った以上に加工に手間がかかるためランニングコストの問題には苦労しています。

——起業して得たもの、わかったことなどを教えてください

結局はひと（人）。いろんな人と繋がって助けていただいて、ここまですべてやらせていただきました。今では鎌倉アンチョビのスタッフのほうがい

鎌倉発!

女性の起業

～新しい挑戦をいきいきと～

特集



起業を躊躇されているのなら、
すぐにスタートすることをおすすめします

野口世津子さん

ディアを持っています。今でも、誰もやってこなかったことを続ける苦しみ、壁、孤独はありますが、それを解決していく中でまた違った展開があり、楽しみも生まれています。正直言って、やりたいことが2割、やりたくないことが8割ですが、その8割をどれぐらいこなしでいくかで2割の質が上がっていくと思います。

——後進へのメッセージをお願いします。

明確な信念を持つてほしい。それは自分のためなのか社会のためなの

か、行き詰まった時に立ち戻れる場所があるか。マイナスなことがあってもそれをどうプラスに転換していけるかを身につけてほしいと思います。

——社会にもとめるもの、望むことはありますか

個人々人を認めることができるおらかな社会、さまざまな個性を受け入れる包容力のある社会になってほしいです。

社会への貢献について語られるやさしい笑顔の中にも、揺るぎない信念がうかがえました。



築180年の古民家のご自宅は趣きがある

(※)第6次産業▼第1次産業に従事する農家や漁師が、生産だけでなく、生産・収穫した作物などの食品加工(第2次産業・流通販売(第3次産業)まで一貫して手がける経営のこと。

●鎌倉アンチョビ

<http://www.kamakuraanchovy.com/>

鎌倉駅から歩いて5分ほど、事務所のドアを開けると、カラフルな小物が所狭しと棚に並んでいて一気に楽しくなりました。二人のお子さん(高校2年、中学2年)の母でもある有限会社スーパ代表取締役野口世津子さんにお話をうかがいました。

——起業のきっかけは?

もともとアメリカの音楽を紹介したり、ミュージシャンを発掘したりする個人事業を東京でやっています

たが、子どもが生まれてから自然が多いところで子育てしたいと思うようになりまして。鎌倉と東京は何かあればすぐに行き来できる、程良い距離ですので、平成15年に鎌倉に引越し、会社を設立しました。

——グリーンスティックについて教えてください。

20年以上前にイギリスのマッチ職人が考案したエコグッズです。一見マッチのようですが、厚紙の軸の先端一本一本に4〜5粒の種がついています。軸を折って土に挿すだけで手軽にガーデニングが始められます。



カラフルな小物がならんでいる事務所

——グリーンスティックとの出会いは？

オーストラリアの音楽市場でミュージシャンを発掘するなかでこの商品を知りました。アイディアと見た目の新しさに「これだ!」とひらめき、日本総代理店の契約を結び、平成21年から販売を始めました。珍しさやデザインの可愛さからたくさんお問い合わせをいただきました。平成21年度鎌倉市商工業元気アップ事業のステップアップ部門の認定を受けましたので、音楽事業の方はビジネスパートナーにまかせ、私はグリーンスティック事業に専念しています。

雑貨としての面白さだけでなく、どこでもできる手軽さ、育てる楽しさの発見など皆様に喜んでいただいています。種の生長過程に話が弾んだり、贈り物やウエディングで使用される方もいて、小さなスティックから生まれる大きな広がり到手伝えを感じています。

——子育てとの両立はどうしていますか？

私は名古屋出身で鎌倉に親戚もいません。子どもが小さかった頃は、仕事で帰宅が遅くなる時など、保育園やママ友達にずいぶん助けていた



▲数種類の花の種を漉き込んだハンドメイドのシードペーパーと花の形にカットしたミニシェイプセットは新商品
◀グリーンスティックの使い方は簡単!



できました。子どもたちにはさびしい思いをさせたいと思います。一方、休日子どもと海に出かけたり山を歩いたりして、鎌倉の自然を身近に親しむことができました。また、仕事中に道でばったり知人に会えることも多く、子どもの様子を教えてもらったり情報交換をしたり、地域ぐるみのお付き合いに安心感を覚え、職場が鎌倉でよかったと思えました。

——後進へのメッセージをお願いします。

起業を躊躇ちゅうちゅうされているのならすぐにスタートされることをおすすめし

ます。仕事から教えられることが多いですし、用意周到に考えてもまた新たな壁が出てきます。まずはアイディアを形にしてみる。起業してから問題に対処していけば良いと思います。

——起業して得たことや感じたことがあればお聞かせください。

スタート時に勢いは出せると思いますが、事業には継続とチャレンジが必要です。継続させるためには体力と気持ち、そして、人を育てることも必要ですね。お客様から寄せられる反応を身近に感じられる規模でやっている会社ですが、会社の方向性で頭を悩ませることもあります。

最近、今までの様々な経験がようやく自分の中でまとまりはじめた気がします。この経験を活かして、他社の企画や制作のお手伝いを考えています。

専業主婦の経験がないとおっしゃる野口さん。肩に力を入れずに話されるまなざしに将来を見据えた力強さを感じました。

元気な事業
応援します

鎌倉市商工業元気アップ事業

▶ 問合せ先 市民活動部観光商工課商工担当
☎0467(23)3000 内線：2355

鎌倉市では、これから創業する人や中小企業者による新商品・新サービスの事業化などの取り組みを「商工業元気アップ事業」として支援しています。

毎年、鎌倉の地域資源を生かした新商品、鎌倉の地域特性を生かした新サービス、特殊な技術を生かした新製品、斬新な発想のビジネスモデルなど独創的な事業計画を公募し、選定委員会を開催してプレゼンテーションを行い、選定された事業計画を市長が認定します。認定されると、市が事業化に要する経費の一部を助成したり、認定事業の市ホームページ等での紹介や市主催事業でのPR等を行います。

今回のパスポートで取材をした鎌倉アンチヨビ、グリーンスティック、梓想庵（P 8「す

てきな生き方」）はいずれも鎌倉市商工業元気アップ事業の認定を受けた事業です。

創業の夢をお持ちの方、新事業への挑戦を考えている方、応募してみたいはかがですか？



松尾市長コメント

少子化・高齢化により社会構造が変化するなか、女性の活躍が経済・社会の活性化には欠かせないと考えております。このように、鎌倉市には活発に活動している女性が数多くいらっしゃることを大変心強く感じています。

今後とも、皆さんに、ご自身の個性・能力を発揮していただきたいと思います。

男女共同参画の実現は、一人ひとりが生きがいを実感して、人間らしく暮らせる社会づくりのための最重要課題です。防災をはじめ、世界遺産に向けたまちづくりなど、あらゆる分野に女性の視点が必要と考えています。女性の皆さんのますますの活動を期待しています。

働きたい、社会貢献したい、
いろいろな分野で活躍したい、
あなたを応援します。

かながわの女性応援サイト

かながわの女性応援サイトは、女性が個性と能力を発揮できるよう、さまざまな分野でのチャレンジを応援する、県立かながわ女性センターによるサイトです。

「働く」「キャリアアップ」「社会貢献」などのチャレンジテーマ別に支援機関の情報を掲載しています。「何かにチャレンジしたい」「何か始めたい」と思っている女性にとってのお役立ち情報が満載です。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100640/>

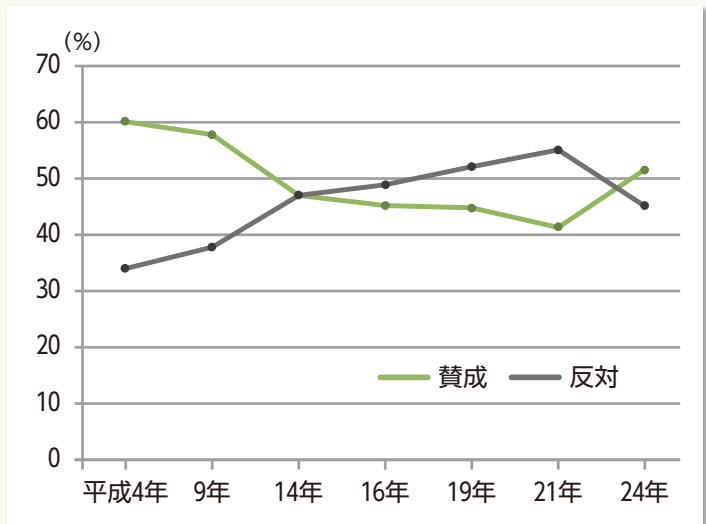
あなたは賛成？ 反対？ 「男は仕事、女は家庭」の考え方

内閣府が平成24年10月に行った「男女共同参画社会に関する世論調査」の調査結果が先ごろ発表されました。

調査項目のひとつ、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成またはどちらかといえば賛成と考える人の割合が51.6パーセントとなり、前回の調査結果と比較すると10.3ポイントの増加となりました。

性別で役割を分担するいわゆる「固定的性別役割分担意識」。調査開始以来、減少してきた賛成派が初めて増加に転じたこともあり、話題となっています。

若者の就職難や、仕事と育児の両立の難しさが背景にあるのでは、と言われていますが、あなたは賛成ですか？ 反対ですか？



内閣府 「男女共同参画社会に関する意識調査」 より
「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」という考え方について

女性の声を集めてみました

賛成!

家族から不満が出にくい気がするから。
(30代既婚)

「夫」「妻」それぞれの役割がある。きちっと役割を分担しあったほうが安定した家庭を建設、維持できると、この年齢になりそうえる。妻となり母となるとその役割の重さ、重要性、多様性、充実感に夫にまさるものがあるのでは。高齢になって家庭にもどった夫にバトン交換して今は「妻は外」でイキイキしている。
(70代既婚)

「子どもが小さいうち」という限定で賛成。夫の収入に頼る人生は不安定との思いから、出産後も仕事を続けているが、共働きは子どもに寂しい思いをさせると思う。子どもの手が離れるまでは、家にいたいというのが本音。
(30代既婚)

反対!

毎日が子育てと家事の繰り返しではストレスがたまってしまいそう。時には外に出て、自分の能力を発揮できる場所やストレスを発散する機会があった方が、生活が充実すると思う。
(20代未婚)

自分の好きな仕事を続けている私は、大変なことも多いけれど社会の一員としての充実感や学びを得て妻、母、女性として成長してきたように思う。女性が働き続けることができる社会環境整備、夫が家事、子育てを「協力」ではなく「役割」とする意識変容、社会の仕組みが必要。
(50代既婚)

家庭のあり方は様々であってよいという意味で反対。一元的な価値観のモノサシではかかるとはならず、社会が多様な生き方を尊重する必要があると思います。
(40代既婚)

夫と妻はお互いの合意に基づいて家庭生活を営んでいるわけで、それぞれの適性に照らして家庭内の役割を果たし、子育てにおいても平等なレベルで合意・実行を目指していくことが理想。その基本には、何よりも男女が同じ人権を持つものという大前提があると思うから。
(60代既婚)

ひとりで悩んでいませんか 鎌倉市女性相談のご案内

夫婦、家族関係、女性に対する暴力、セクシュアル・ハラスメント等女性が抱える問題を一緒に考え、生き方を見つけるお手伝いをしています。まず、気持ちの整理を試みませんか。

お気軽にご相談ください。ご相談は専門の女性相談員がお受けします。
秘密は守ります。

| | 相談方法 | 問い合わせ |
|------|---|--------------------------|
| 電話相談 | ☎0467(23)9311 月～金曜日、 10:00～13:00 14:00～16:30 (祝日・年末年始は除く)。 | 文化人権推進課 ☎0467(61)3870 |
| 面接相談 | 月～金曜日、10:00～13:00 14:00～16:30 (祝日・年末年始は除く) まずは☎0467(23)9311で予約してください。 | |

募集!

あなたも男女共同参画情報誌「パスポート」の 編集委員になりませんか。

本誌「パスポート」は、鎌倉市と男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」の協働により発行しています。

企画、取材、原稿の執筆は「アンサンブル21」の情報誌部会メンバー（市民ボランティア）が行っています。情報誌に興味のある方、一緒に情報誌を作ってみませんか？
入会お待ちしております。

問い合わせ先 鎌倉市文化人権推進課 ☎0467(61)3870

編集委員のひびき

- ❖ 鎌倉を生活の場だけでなく起業の場にもしようと移り住む若い人たちが新しい鎌倉の活力になっていることを知ることができました。次号より新しいスタイルになるそうので、気分一新であたります。
(稲田)
- ❖ 『起業』という形で仕事をされている女性ということで、男勝りで突き進んでゆくタイプの方かと思っていました。お二人とも気負うことなく自然体で素敵でした。いきいきと話されるなかにも繊細さが垣間見え、頼もしさと元気をいただきました。
(平石)
- ❖ 鎌倉で起業して活躍されている方々取材し、こちらも元気をいただきました。
鎌倉ならではの取り組みをバツクアップする制度もありますが、私たち市民も応援していきたいと思いました。
(草間)
- ❖ 取材を通じて起業家として新しいことを始めていかれる熱いエネルギーにひきこまれました。
また女性だからこそその着眼点にこれからの女性の可能性の広がりを感じました。
(内串)

※ すてきな生き方



● 梓想庵 <http://www.shisouan.com/>

「800年前にタイムスリップして鎌倉武士を体験できる。」そんな空間が北鎌倉に存在している。鎌倉武士装束体験と弓体験の「梓想庵」だ。店主は武田流・流鏑馬の射手でもある有本大輔さん、今年29歳の「若武者」である。聞くと山口県出身という。それが何故今鎌倉で流鏑馬を？

世の中に役に立つ仕事を

有本さんは7歳上の兄の影響で歴史と弓道が好きになり、中学・高校では弓道部の部長を務めた。高校卒業後就職したが1箇所に長くいられず、いくつかの職を転々とした。厳しい現実の壁に突き当たったが、それは自分を見つめ直す機会にもなり、いつしか世の中の役に立つ仕事がしたいと思うようになった。その頃一緒に乗馬を始めた友人との会話で「流鏑馬」があり、インターネットで調べて武田流を探し当てた。「志さえあれば

伝統武芸の将来を背負って立つ 『若武者』の夢

し そうあん ありもとだいすけ またよし み
梓想庵 有本大輔さん・又吉あけ美さん（鎌倉市山ノ内）



横須賀に移り住み、働きながら修行を積んだ。初めて人前で流鏑馬を披露することを初陣というそうだが、有本さんの初陣は入門してから4年後の24歳だった。流鏑馬の起源は鎌倉ではないが、源頼朝が鶴岡八幡宮に奉納し、その後も鎌倉時代を通じて奨励され執行されたことから、鎌倉と流鏑馬は縁が深い。武田流の門人の間で、鎌倉時代を再現できるものが鎌倉にあつたらお客様がもっと喜ぶのではないかと話し合っていて、その第一歩として鎌倉武士装束と弓体験の店を考案つき、北鎌倉の古民家を改装して店舗兼住居とした。平成23年度の鎌倉市商工業元気アップ事業に認定され、平成24年3月に開店、開店から1年足らずの間に500人以上の人が訪れ鎌倉武士を体験している。

装束は全て手作りのオリジナル、担うのはパートナーの又吉あけ美さん(25歳)である。又吉さんも武田流の射手で、有本さんより歳下だが流鏑馬歴では先輩に

誰でも入門できる」という言葉に惹かれ、見学のために上京したのが20歳の時。武田流で自分の居場所が見出せる気がして、すぐに入門を決めた。稽古をする馬場に近い

なる。神奈川県茅ヶ崎市出身で中学・高校は弓道部、高校1年から流鏑馬を始めた。大学卒業後1年働いて資金をため、22歳の時油壺で初陣を飾った。

**心と技を磨いて
『良い』流鏑馬を奉納したい**

流鏑馬というと男性しかいないのかと思いきや、武田流では約60人の門人中20人くらいは女性だそう。以前は女性はお飾的存在だったが、今は門人の中では男女差は無いという。馬の扱いなどでは、むしろ女性の方が優れている面もあるそう。江戸時代までは神社の神事は女人禁制だったが、現在は解除されたところも多い。鶴岡八幡宮は女人禁制だが、明治神宮、逗子海岸騎射式などでは女性の流鏑馬を観ることが出来る。又吉さんは「女性が流鏑馬神事に参加できる神社がもっと増えて、いつか1箇所くらいは女性だけの流鏑馬があつたらいいなと思います。」と控えめながらしっかりと口調だ。

現在、日本の『馬』文化は衰退しつつあり、流鏑馬のような伝統武芸も存続の危機にある。有本さんは「お世話になっている武田流に貢献したい、それは心と技を磨いて少しでも『良い』流鏑馬を神様とお客様にお見せすることです。」と言う。そして梓想庵が目指すのは、鎌倉時代の生活を忠実に再現し、流鏑馬をはじめとする伝統武芸と武家文化の複合施設『鎌倉村』を創設すること。伝統武芸の将来を背負って立つ若武者の夢は大きい。